ハコフグ

水族館へ行こう！

京都大学白浜水族館

34

太田　満

愛嬌の裏に意外な一面

△意外な行動を取るハコフグ（水槽番号411―3）

おなじみのハコフグは、紀南沿岸で普通に見られるフグの仲間だ。体はうろこが変形した固い甲に覆われ、動かせるのはおちょぼ口と尾部、目、ひれだけである。

幼魚のうちは結構すばしっこく動くが、成魚になると、ちょこまかひれを動かす割にスピードがなく、素手でも捕まえられるほど。だが、刺激を受けると、体表の分泌腺からパフトキシンという毒を出すため、大きな魚に襲われない。タレントのさかなクンがかぶっている帽子はハコフグをモチーフにしている。

このようにハコフグは愛嬌（あいきょう）のある人気者だが、水槽では何度か意外な行動で驚かされたことがあった。フグ科やカワハギ科、ハリセンボン科など、フグの仲間を集めて展示している水槽での出来事である。

全長40㌢ほどあるイシガキフグの体に、丸くて小さな傷が無数にできた。日を追って傷口から出血して弱り、ついには4匹が相次いで死んだ。この時点で傷がどうしてできたのか分からなかった。

ある日、ハコフグ6匹が、最後に残ったイシガキフグに集団で食らい付いているのを目撃した。イシガキフグは振り払おうと暴れ、水槽の壁に何度も激突し、パニック状態。ハコフグも一緒に衝突するが、それでも放そうとしない。慌ててイシガキフグを取り出し、別の水槽に移した。ハコフグたちはその直後、今度はサザナミフグに襲いかかり、あっという間に傷だらけにしてしまった。

最近では、もっと大きなモヨウフグを襲撃したが、発見が早かったため大事には至らなかった。一見おとなしそうなハコフグが、大形で動きの遅いフグにだけ、どうしてこのような集団暴行とも言える行動を取るのか、いまのところ不明である。

水槽という、狭くて閉鎖的な空間での出来事だが、例えば餌場を集団で守るなわばり行動など、まだ知られていない生態と関連しているのかもしれない。（京都大学技術専門職員）